



書名		中学校 書写	11 学 図
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○始筆・終筆・筆脈を点線や矢印で示し、楷書と行書の違いやそれらに調和した仮名の書き方を言葉によって解説し、理解をうながしている。</p> <p>○楷書と行書を目的や場面によって使い分けられることができるように、楷書と行書を書く場面を設定し、写真による資料も掲載している。</p> <p>○コラム「書写の窓」で、文字の歴史が私たちの書き文字につながっていることを示している。</p>		
特 内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○教材ごとに、「目標」がタイトルとして明確に示してある。「楷書に調和する仮名」に中心線が引かれ、文字のバランスを身につけさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、基本的な点画について、穂先の動きが朱墨と薄墨を用いて示してある。手本のあとに解説を加え、中心や筆順を確認させるようにしている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立てられ、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。また、硬筆、毛筆ともに字形を整え、中心を意識して書くことを重視した構成となっている。</p> <p>○写真や図版による手本を提示することで、学習者に自分の字と比較しながら取り組ませるように配慮している。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○「学習の進め方」として、①試し書き②練習③まとめ書き④硬筆で書く、という一連の流れを視覚化して説明している。</p> <p>○「振り返って…」では、学習の目標と連動した複数の自己評価項目に照らし合わせ、活動を振り返らせるようにしている。</p> <p><b>&lt;国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫&gt;</b></p> <p>○「書写を生かそう」の単元を設け、職業体験や文化祭など学校内外の社会に関わる取組を題材に、生活と書写の関連を提示している。</p> <p>○毛筆の学習の後に「硬筆で書いてみよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>		
色			
資 料	<p>○「書くときの姿勢」「筆の各部の名称・働き」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○各学年の最後に楷書と行書の「書き初め」を、巻末の「資料編」には「楷書のいろいろな書き方」「書き文字と活字」を単色で、また、随所にコラム「書写の窓」を写真図版と解説を交えて掲載している。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を行書体で示している。</p>		
表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を記号で示し、手本と別に中心線やポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示してある。全ての手本を半紙の原寸大で示している。学習目標と学習の進め方、振り返りが別枠で示してある。楷書の字画の許容についてページを割いている。案内役のキャラクターが学習のポイントを示している。</p>		
総 括	<p>○B5変型の判型である。毛筆の主たる手本を見開き2ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆の学習で学んだことを硬筆で確かめ、硬筆の学習に生かすように構成している。また、書写の学習をどのように生活に生かすかは、3年の学習でまとめて取り組ませる構成になっている。「書写の窓」で観賞ページや発展的な内容を紹介している。書き初めの手本は、各学年の最後の教材として別々に掲載している。</p>		



書名		17 教 出
項目	中学書写	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○手本の文字に穂先の写真や点線、筆順を表す数字を示すことで、始筆・送筆・終筆の仕方をわかりやすく示している。</p> <p>○書く内容や目的に応じた書き方を話し合わせる活動例を示し、楷書と行書を使い分けたり、用具・形式・書き表し方を工夫したりする必要があることに気付かせている。</p> <p>○写真や図、作品例を数多く掲載し、書き表し方や取組の解説を示して、学習したことを日常生活に生かすような構成になっている。</p>	
特 内 容	<p><b>&lt;基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫&gt;</b></p> <p>○各教材で「目標」を明示している。「なぞり書き」や硬筆での練習枠を設け、文字のバランスを身に付けさせるようにしている。</p> <p>○毛筆では、基本的な点画の他、穂先の動きを濃淡のある朱墨で示したり、筆脈を点線で示したりしている。硬筆での試し書きの後、毛筆での書き方を学ぶ構成になっている。</p> <p><b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成する工夫&gt;</b></p> <p>○各学年の取組において段階を追って章立て、学習者にねらいを意識しながら取り組ませるように構成している。目標を明示し、課題意識をもって取り組ませるようにしている。</p> <p>○「学習を生かして書く」教材では、授業や社会生活に関連した写真や資料を参考例として掲載し、比較しながら習得事項を活用させる機会を設けている。</p> <p><b>&lt;主体的に学習に取り組む態度を養う工夫&gt;</b></p> <p>○「学習の進め方」を①目標②試し書き③自分の課題を見つける④毛筆の学習を生かす⑤まとめ書き⑥振り返り⑦学習や日常生活に生かす、という流れで冒頭に示している。</p> <p>○「振り返ろう」では、その単元での学習の目標に合わせた評価項目が設定されており、それぞれの項目を「○=できた △=もう少し」で自己評価させるようにしている。</p> <p><b>&lt;国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫&gt;</b></p> <p>○「学習を生かして書く」の単元を設け、原稿用紙、レポート形式、手紙、ポスター、案内状など、身近な書く活動を題材とし、生活と書写との関連を示している。</p> <p>○毛筆で学習したことを他の文字にも生かして書くために、各教材で「生かそう」という硬筆教材を設け、毛筆と硬筆との関連を図っている。</p>	
色		
資 料	<p>○「姿勢と用具の使い方」「毛筆・硬筆の置き方」等を、写真を使って解説している。</p> <p>○各学年の最後に「書きぞめ」の学習を取り入れている。巻末の「資料」には「書式の教室」と「補充教材集」を、また、歴史上の人物の文字や書に関する資料が数多く、写真や解説とともに掲載されている。</p> <p>○「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとに分類し、部首別に行書体で示している。</p>	
表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を記号で示している。筆使いのポイントを記号や数字、点線、朱墨の濃淡、穂先など様々な図で示している。仮名も含め、正しい筆順を示しているページが多い。学習目標と学習の進め方・振り返りには、特定のマークが示してある。振り返りでは目標に沿った評価のポイントを示し、自己評価する構成になっている。</p>	
総 括	<p>○B5の判型である。巻頭の「目的に合わせて書こう」で「書く目的」ごとに「どんな力を身に付けるか」を示している。また、各学年の初めのページに改めて目次を設けており、見通しをもって学習に取り組めるようになっている。見開き2ページの右に毛筆手本、左に「目標」「考えよう」等の学習項目を示す構成のページが多く、硬筆での練習機会も多く設けられている。発展的な内容や資料は、教材と教材の間のページに掲載し、歴史上の人物や文学者の肉筆を掲載している。</p>	



